

学習教室 マイルーム亘理

<学習塾概要>

名称: マイルーム亘理

所在地:

東京都小金井市本町5-17-5

電話番号: 042-381-3691

代表: 亘理千鶴子

創立: 1971年



日本語検定をフルに活用！

＝学習教室「マイルーム亘理」を主宰する塾講師に聞く＝



都立高校入試が終わった直後の2月25日、東京都小金井市のJR武蔵小金井駅に程近い学習塾「マイルーム亘理（わたり）」を主宰する亘理千鶴子さんにインタビューした。同学習塾は、小・中学生合わせて40人から50人の塾であるが、「日本語検定」を学習の課程に取り込むことで、大きな成果を上げている。

「ら抜き言葉」や若者独自の隠語的表現など言葉の乱れが、国語力低下の一因になっている。亘理さんは、日本語検定の受検が子どもたちの「正しい日本語」に対する学習意欲の契機ともなることを期待している。もちろん、子供たち自身が、敬語、漢字など自らの国語力を知る目安となっている。

30年余に及ぶ、塾講師の経験を踏まえて最近の「学習塾事情」を聞いてみた。

<日本語検定を利用し始めたのは。また、その狙いは。>

平成20年春の検定からです。その後、毎回受検しています。（昨年秋の日本語検定では）小学生が1年から6年生まで全員の9人、中学生は都立高校の入試を控えた3年生のうち5人が受検しました。

中学3年生なら、都立高校の「自己PRカード」に「日本語検定認定」を書き込むことができるんです。内申点にはカウントされませんが、自らが持つ国語力の資格として、学校側にアピールできます。

中学3年生で、4、5級の認定なら平均レベル、ごく少数ですが、3級に認定された生徒もいます。3級は高校生から社会人が対象の級ですから、中学生で認定されれば大きなアピールポイントになりますね。

学習教室 マイルーム亘理

〈塾にくる子供たちの受検級と認定率を教えてください。〉

中学3年生では、3級の受検者はごく少数です。4級から5級が中心でしょうか。小学生の場合は、5級から7級までであるうち、高学年で、5、6級です。低学年では、7級に2年生が認定されました。認定率は、級によっても異なりますが、準級の認定もあるので励みになっています。

〈今ごろの子供たちの国語力についての印象を伺いたい。〉

昔も今も、そうは変わりません。子供たちの日本語能力についての質問をよく受けるのですが、「敬語は？」—と問われれば、「落ちている」と即答しています。

かつてなら自然に覚えた敬語ですけれど、最近はそうはいきません。敬語という以前に、「敬意」の廃れた社会になった、と感じています。目上の人に敬意を持つこと、それを態度で示すこと、言葉で伝えることを、きちんと教えなければならない時代になりました。そうしたことを教えるうえで、日本語検定はよいきっかけになっていると思います。

〈塾として国語力を意識的に高める取り組みはしていますか。〉

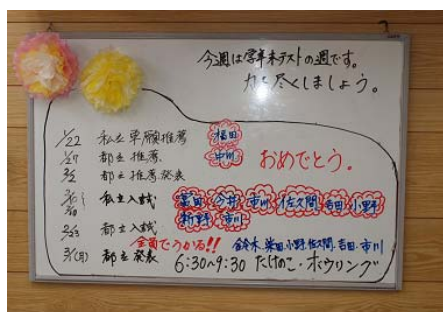
日本語検定を大いに活用しています。小学生は特に、検定の1カ月前から、全員そろって、まずは最初に課題プリントに取り組みさせています。中学生は、国語の時間に過去問（過去の試験問題）を解かせています。

〈受検結果について、全体的にどう判断していますか。子供たちにどんな変化がみられますか。〉

学年が低いほど、家族ぐるみで検定のための勉強をしている様子が見て取れます。1級1級、上がっていくことをとても楽しみにしています。

認定された子は、それが自信になり、駄目だった子は次回に再挑戦する、良いリズムができています。

「あー、今のは“ら抜き言葉”だね」とか、「それは、へりくだった言い方だね」といった会話ができるようになりました。日本語検定を通じて、もっとも言葉への関心を深めてほしいと思います。



教室の壁に付けられたボードには、都立高校の入試（2月23日）を前に、滑り止めで受験していた私立高校の合格者の名前が、8人ほど掲示され、赤のマジックペンで花柄を描き、お祝いしていた。また、「単願推薦」「推薦」などにも2人の名前。高校合格「おめでとう」の文字が何とも、まぶしい。中学3年生には、高校入試シーズン真っ盛りの2月下旬。全国の街の学習塾で、みられる、悲喜こもごもの風景だ。